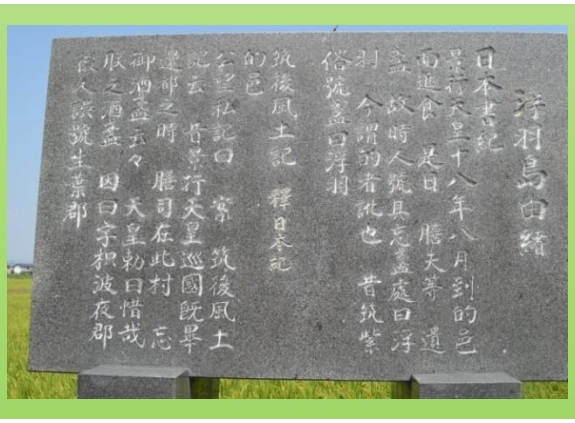
広報 うきは
こころをつなぐ情報誌
2017年10月1日号
福岡県うきは市　No.290

「浮羽島」太古のうきはを偲ぶ

▲　9月10日、景行天皇御巡行ゆかりの地「浮羽島」（浮羽町浮羽）で、「浮羽島顕彰石碑」（写真右端）建立41周年に当たり、地元浮羽区による記念式典が開催されました。傍らにある杉は天皇の杖が根づいたと言われる逆杉（さかすぎ）と呼ばれ、台風や落雷で枯れても住民が植えついで大切にしてきました。



▲　現地の石碑（上の写真・中央下）には、日本書紀と風土記の一節が刻まれています。

「浮羽島」の由来

日本最古の正史・日本書紀や風土記に次の説話が記されています。

景行天皇の18年（約1900年前）九州巡行の時、天皇は八女から当地にお出でになって食事をなさいましたが、お供のお料理番が盃（さかずき）を持ってくるのを忘れてしまいました。

天皇は「惜（あたら）しきかも、朕（わ）が酒盃（うき）はや」（惜しい事をしたものだ、私の盃を忘れたとは）と嘆かれました。

その頃、盃を「うき」と呼んでいました。

それ以来この地を「宇枳波夜（うきはや）」の郡（こおり）と呼び、なまって生葉、浮羽と呼ぶようになり、村名・町名・郡名のもとになりました。　※現地の説明看板から

編集・発行　うきは市役所　〒839-1393　福岡県うきは市吉井町新治316番地　TEL0943-75-3111